

# 自律型対話プログラムによる科学技術リテラシーの育成

(LSSL: Learning Science for Science Learning)

## 背景

	科学的な問題	トランスサイエンスの問題
科学技術コミュニケーションの目的	知識伝達、科学振興、科学への親しみ、etc.	価値観の認知、共有、意思決定、問題解決、etc.
コミュニケーションに関わる要素	科学的知識	科学的知識と社会的価値
問いの例	BSEは人間にも感染するか	BSEの疑いがある牛の輸入は禁止すべきか
コミュニケーションの方法	一方向型(講演会、講習会) 双方向型(サイエンスカフェ、科学ショー、科学イベント、etc.)	一方向型(説明会、公聴会) 双方向型(コンセンサス会議、シナリオワークショップ、フューチャーサーチ、etc.)

近年注目のコミュニケーションの活躍の場

コミュニケーションの方法というよりアセスメントの方法として開発された

## 目的

近年、BSE、薬害、原発関連など、**科学技術リテラシー(科学知識)**だけでは、こたえが出ず、科学技術リテラシー(科学知識)と**社会リテラシー(価値観)**の両者に基づく熟考、熟議が求められる問題(**トランスサイエンス**)がある。

しかし、現実の専門家vs.市民のディスカッションでは...

専門家「どれだけ説明しても関心・信用が得られない」

市民「関心が持てない。どれだけ聞いても不安が拭えない」

**ディスカッション評価法の確立**により「十分な話し合いによる満足な解決」を導く。

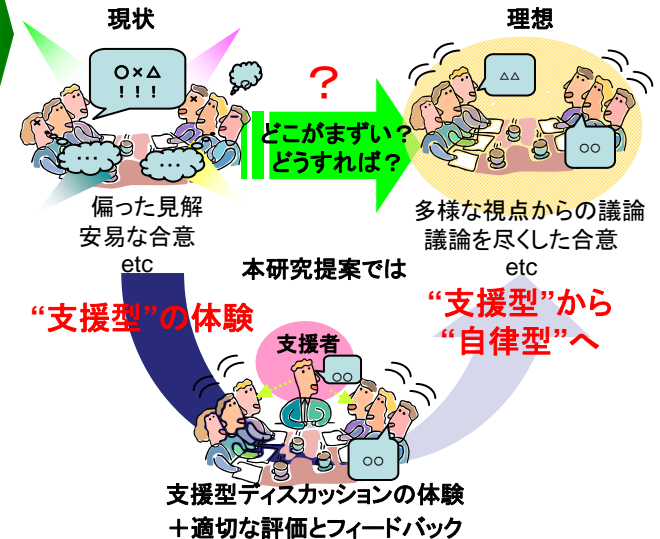
## インパクト(Impact)

科学技術コミュニケーション、裁判員制度、教育現場など、専門家と非専門家の「話し合い」の実践現場への応用

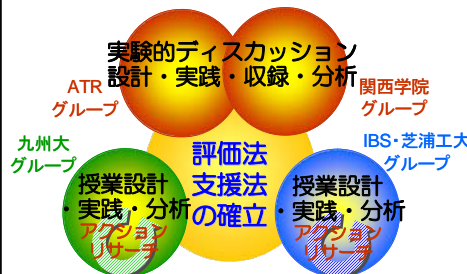
## 本研究の目指すもの

大学におけるディスカッション教育プログラム「**自律型対話プログラム**」の開発

- ・ディスカッションの効果的な支援方法
- ・“プロセス”を重視したディスカッション評価法



## 研究方法・実施体制



## 成果物

- ①教員向けガイドライン、学生向けガイドラインを含む授業シラバス
- ②対話コミュニケーション評価のための評価項目リスト
- ③授業設計のための事例集、教材等

研究プロジェクトホームページ

<http://www.lssl.jp/>